



出江幸表

虎

八



U 5
112
8



三月廿七日西小大風夕八ッ半時迄浅草野原の門前曼荼羅堂より出火花川

○十月十七日西小大風夕八ッ半時迄浅草野原の門前曼荼羅堂より出火花川

戸町(出世辺)僅小焼けて中の分は松浦彦山中屋敷(飛本)新刻下あり

吉田町吉岡町三ッ目四ッ目の名(焼按)多深川様江の辺扇橋向六万坪の隙小

く焼く一口は信恩寺橋通り(飛)小砂村連焼亡以堅一里の隙あり○十月十九

日夜九時迄青松も焼亡○武江披沙成 写本太田蜀山著江戸志に戸砂子と解乃

○江戸名家墓石一覽刊行 中古より江戸名家墓石撰年刊墓石を撰む本々下目録

○十月廿一日司馬江漢峻卒 七十二年不言人と其原江戸より西洋画をとりしりる

文政二年 己卯 四月間

正月廿一日大雪○二月龜田勝高(高)高瀨泉岳寺(我)寺の墓辺(碑)を建て

○二月八日(初)飯倉町六丁目(出)火二町余焼亡同夜八ッ半時新番町より

出火町跡左馬町竹川町根座四丁目尾張町三十番堀四丁目より二丁目まで

築地井伊屋古藩辺より焼く南小十町除東西四丁程焼亡翌日昼四時迄

火之出消人足の喧嘩あり○二月画工北尾重政卒 八十才紅翠筆花藍と号し振筆

○詩人橋本如亭卒 辛七名祖 林門他 ○二月廿五日より龜戸天儲宮法性坊社開帳

三月廿日境内より林田信人者本何某百等 後の大さの紙(籠)の字を去り ○二月廿九日夜九時本町三丁目より出火

本石町室町尾川町小新町日本橋一石橋の隙迄敷焼○夏より(病)病行

死亡のり(病)病行 は病の病を俗ありロリと云これとを避るちりしとを標幽の戯画百鬼夜行の

○二月十一日小田系より本食の(沙)門 内ぬれ女の圖と号し神社那と号し流布せし或その名あり

言と校く(書)銭集夥一○回向院より房州名古寺親世者開帳○淡谷長

谷(あ)く(わ)洲(関)奉(送)了(権)現(宗)帳○三月九日(凌)草(幸)祐(ち)ち(上)総(藤)原

妙(光)寺(祖)師(開)帳○四月(心)流(劍)術(師)橋(剛)孫(岳)壺(宣)根(卒)

○五月新小判を分判吹努七月方通用 ○夏浅草橋場小振座吹所出する

○夏日向院より漢藏清涼寺釈迦如来開帳 ○五月十日唐人清水曲河奉七十三名

○春より深川永代より江の高弁才天開帳 ○林田明作社地小願堂を建立す見林連

○此秋浪花より下り一田正七郎といふ老翁は人物を歎き花の歌を傳りしを

浅草より奥山より石巻物と伝遠をのこる物夥し花を初るの加護ありと云ふかど細工

為國橋西詰小菟細工とて大なる酒類童子の歌を傳り見せ物と伝はる人こゆるやめはるいあ

の傳りしを松と彫りて涅槃の釈迦を兼て傳りしをはる人こゆるやめはるいあ

船の造り物杯も見せたり是よりこはる大造のこる物出る ○七月廿六日深草橋

師勝川春英死辛卯年号九種故本奉終り中若學ふ ○十二月九日夜所成乃井上

炭山極盛焼亡 ○十二月廿九日乾梨風来中刻三味線極盛依竹炭山極盛より

出火而時小向の移り新成炭市橋炭山極盛南の影の方焼出又も越より越

明神社瀧磨堂天文系の辺茅町追手外町屋も院多々焼以羽三日浅草

茅町より出火より辺二三町焼る ○月廿六日夜南新炭山極盛焼失は外

小火存く小在 ○儒師井上四明卒名潜孫仲一号佩強固今年九十七才して卒は

文政三年庚辰

正月元日梅花師奉招世一得三年百三才浅草常持の故位ありはは

四日廿五日龜戸天満宮奉更の祈り始る三圍のあり院内の碑文ありと云ふ

○二月中旬深川沖一縣二喉寄る六石半程の小魚之 ○三月十一日浅草

五泉より松葉谷妙法寺祖師開帳 ○三月より深川降るより身延山

祖師開帳 ○三月廿二日庚辰年庚辰月庚辰日不吉なる於五所年徳神を奉

る事ありは日無事七年より四百廿三年 ○春より南谷村熊野十二社控規

開帳境内の池小泉の造り物ありこの節日く雨降りれば或人の粒をふ ○六月朔日

回向院にて信及名義の如未開性為必指辺りせ物多り出るちふ ○不忍池の南西の端さか

土子つこととて中細流を隔りて 茶庭料理庭多と建列の橋を裁て去の以りて縁ゆかり

ける天保中より五掛せり ○六月六日夕方雷雨しく墜おち ○儒師市川寛春かんしん

卒し 七十二才名世寧なせい ○八月十五日夜月の内小星入る ○八月十七日麻布一本松氷川町林

系被再身着子町より一係物未せ出しん ○今年正月より秋より寺塔成る

あま指法あまさし又造の着せ物出るおのれりる不せたる小あり

△針金細工はりご 細工人胡蝶 △交葉細工まじは 日向 虎遊とら 日向 兩七小町らうしち 日向

△花巻細工はなまき 細工人胡蝶 △茶番細工ちやばん 日向 七小町人形しちせう 日向

△貝細工かい 日向 貝細工又海看造かい 七小町人形しちせう 日向

△江戶細工えう 西あま 出助六人取外しやう 削掛白澤の造物せう 日向

△キヤマン象次山景きやまん 又板成樂形いん 文覚上人ぶん 日向

△漆戸物細工しやく 日向院内しやく △時白揚とき 日向 絲瓜細工し 日向

△漆戸物細工しやく 日向院内しやく △三玉の半さん 日向 大盆石お 日向

○九月八日大風白雨 破損湯湯麟祥院大木の根中折る 是れありて 九月廿八

日夜光物形不 ○十月廿四日佛人壺外卒しち 十二月廿九日幸白銀町より

出火幸町辺焼亡 ○月日 儒師下田芳澤卒しち

文政四年辛巳

正月十七日夜お丹篠倉八幡宮焼亡 ○月日 品川宿跡より焼亡 ○月日 十八日

芝新細町より出火大火と成 ○同日 石町より幸町より目途焼る ○月夜 小石川

傳通院より下篠焼失と成 ○正月 火災多し ○二月中旬より 風邪流行 疫民

は救米給を賜る ○三月十五日より 深川永代寺より 下徳成田山不動尊を焼

○月十七日より 護國寺親世善因焼 ○四谷 恭宗より 武洲吉雄山松現園焼

○真光稱爲神神開帳 ○四月より日向院より羽州湯谷山丈持規丈日如來開帳

別當注連寺 ○鎌倉松葉谷祖師法堂 〇四月十三日画并盤

定家菅原洞舟卒 〇五月筋達法門の外牛込代所代地友以并々

心め身肉より針を出入 〇五月筋達法門の外牛込代所代地友以并々

史記曰張嗣伯嘗開屋中呻吟甚嗣伯曰此病甚重乃視之見一老

妣稱體痛而處々有黥黑無數嗣伯還煮斗餘湯送令服之服訖

痛勢愈甚跳投床者無數須臾所黥處皆拔出針長寸許以膏塗

瘡口三日而復云此名釘疽也

誓神錄云處士刺死言其所知額角患瘡醫為割之得一黑石甚奇

巨斧擊之終不傷故復有足脛生瘡者因至親家爲制犬所齧正

蓋其瘡其中爲得針百餘枚皆可用疾示愈

○六月長崎より百兒齊亞國の産路院二派を渡り閏八月九日より西を國廣小

後不出くく看せ物と云 〇七月朔日より日向院より三立形性箱と云

〇九月十二日塙檢校保己一卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

〇十月廿日書家岸幸晚翠卒 〇十月廿日書家岸幸晚翠卒

至之消る国正月廿二日又同一○王子稻荷社再興翌年奏成統○二月六日哉
作者式亭三馬卒 四十七才卒町三丁目住号卒町庵
遊戯道人称菊地太輔

世をうま(備)を方々甲乙を争ひ一二月八月小いりて停らる○春より葺屋所

河原小おいて唐人踊の足や物をあけ カニく踊と云踊の事
大寺地の他り物をあふ 世小おれて為圃深川

あも出以緒人これを生似り 再云あの踊ハ大坂より始り方々一蛇をせあひ
法俗紀開の國中不扱れるところありと云

うんくとしてる日おそろかろ魚ハつるのくこん少くをそろく 蜀山人
わんくの氷もろれを解そあやまらるる自入窓の梅の文 月

○法藏前大護院を移明天王寺興院太子園地○三月五日より永代もあく

加洲俱利伽羅山長樂寺不動音園地○三月より深川浄らるるを鎌倉斤濃電

口寺祖師宗地○四月廿日画人内田玄對卒 卒四才
名瑛 ○五月三日本橋町芝居方出火

○六月より森戸戸田川出火○七月十五日書家浪尻竜涯卒 七十五才
名甚章 ○秋山下

小笑布袋とり見せ物出 脇中をくの遠り物あふの堂在内ふ布袋のいねありる像あり
面取腹をとりりぬる強り例之ぬをを六撃之目を荒一見より

因前を於て踊る月のくくくは伸入ふ異あは 十八日晴天を
十廿日雨天 ○八月廿二日大風雨夕方伴浪深川木場辺三人

陸(上)○九月小石川赤城町林系種産子町より出_一休物多_一出 十八日晴天を
十廿日雨天

○十一月夜中街外小出て刃物を以て威を盗賊行 えんくり
名甚章 ○糸刻家稲毛屋山

卒 十返舎五の作の道中條栗毛京和二年物備を榮光せしよりあつて世あつたれ
今年近不四十六巻を著し今くゆる以存四編の燈定候編を合し五十七巻也

文政六年癸未

正月十二日麻布吉川より出火品川八ッ山辺一飛大品川本宿より鯉洲追焼之

○二月八日倭人素朴卒 九十九才号一陽井土池
今なき書家の名 ○三月八日書家泰里池卒 六十一才 名甚章
稱源亮

○後若田圃勢大助神宗地○三月十七日十八日浅草三社燈籠系礼 甲余年日あく
出る於郵集

先親の通神樂系形あり産子町く出_一休物朱花兼を争へり○三月廿一日

川橋平間方大師宗地○三月廿八日より四月十二日追王子稻荷社神園地

○四月六日太田南畝翁卒 七十五才名單稱連三拜相考をよくし初名四方南畝といふ蜀山人
遠橋山人杏花園木の数号あり其他の出較十餘あり世の知る家

○四月十七日儒師葛西因是卒 六十二才名實 稱建義 ○四月十七日より二日の雪

中村勤之并寛永の初身約より二百年目の事程言身初 ○四月五月旱天五

月中旬より霖雨 ○五月より田向院より攝河四天王太子開帳 三十年目の 開帳あり

○五月十九日より近立出水大川筋大水 熊谷地切多久保村と云処百餘軒焼 戸田川の浸一箇所を止む 為木橋危く

新大橋の半を破るより小柄系地為橋の上迄あり ○六月二日狂言師鳥高

馬馬死 七十才身稱和み 号清洲楼 ○六月十三日曉林田仲町二丁目より出火 ○八月十七日夜八

時より南大風雨悪く人家を損す怪家人死亡の者多し 小川寺輪鮫洲辺大浪

家を破るより少くは六 ○九月十四日山本清溪卒 名正信系の人なりて国守和吉の弟 江戸より参旅中不終る歳七十六

○十二月二日より知夜の方小慧星現る ○十二月廿五日夜越町三丁目より出火

折苗西水の風烈しく二日河津定山火消極一戸の具板より五丁目岩城

升登り止る其火直下をその所破り移り永田の場山王の門寺町在り升虎

の所門迄の雪積度の藩邸数宇南の糺坂より赤坂の火火消極後田町二丁

目迄焼亡辰夜平川の社年の市も混雜りみ斗りあり ○今年更木雲は

○十二月十三日儒師松下葵岡卒 七十六才名身号一希 林清太郎鳥石の姪 不知 儒師情録鄰友卒

文政七年甲申 八月閏

春より麻疹流行夏秋小至る引續風邪流行世に更木降る 麻疹の 流行あり

○二月朔日昼八時三十分南角葉漬屋より火火一々西水

の風烈しくよつれ鎌倉川岩岸根町岸町石町十軒店後河町室町小

川町岸船町伴勢町小田系町辺日本橋迄焼る この時荒布橋殺人押合ふて探干 左右二箇付水中一人即死怪事之

○月夜は晴る音羽九丁目より出火橋本町目白坂改代町辺焼亡 ○此以をより

八王子寺野風杉田敏林 相生木焼亡やとすなり ○二月廿日夜九時時張屋二丁目より出火弓丁辺に焼せり

○二月八日六ヶ所靈巖島の辺に火災あり 誰れよりとてく心月の来より流言

けりて此妖言の如く同日夜六時半時之間所南新堀二丁目より雲々を漢揚
際迄焼る此時町火消同洋不及い怪家人多く即死のものも有り

○二月新次南鎌根通用始 ○三月十三日より浅草芝印よりふくく京妙満寺

祖師開帳并同より新紀州道成寺の種清正公朝鮮より持来の火曼荼羅本

詳せしむ ○三月下旬より山下より五重塔をせり上るるを物出

組込せり上るる赤土中の新塔の事 ○三月廿一日画人鉄形蕙商卒

とらり一枚繪紙の事おまき画り畧画式をあらりてせよられ又糸の黄華山が花浴一覽圖の中

ひく江戸一覽の圖をあらり持上りて林田の社にも江戸圖の類をさげたりて男を赤子といふ

○四月二日暮六時古東京町二丁目より出火廊中焼亡

○七月初一東金通用始 ○七月廿二日八月十日十日曾大風雨 ○八月中霖雨

東洪水 ○七月廿六日画人行桐處翁卒

如き怪歎二丈水より南一空中を飛り光あり ○八月十七日國書若清水瀧

○今年夏より花隠といふ画工あり

○九月赤城町林桑徳の時牛込根町小大サ五尺餘の獅子

○十二月音音宮内以芝旦丁目

○武藏名所考水板成

○家夜十八巻字本成

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月音金離三言張富久卒

○三月七日曉烈風小傳る町之目より出火通油町る喰町未熟焼○ビヤボン
と号一銀より他より笛なる小兒の玩と云一不詳○四月十日大風

○四月の始より藤八五文奇妙と呼て藤の葉を集りての湯を穿り藤の葉を穿りて湯を穿る

○四月廿六日儒師大田錦城卒六十一才名元貞林才助○夏より秋に至り月を以て

人を感て以て血被り町中夜番敷○五月廿六日淨瑠璃院法元延壽世死法元

元祖より元祖より○八月九日中川由義卒五十才名遠業孫能忠○東近郊園板乃一枚物中田惟善撰

○八月末南斗慧星現る○十二月十九日夜五半時葺屋町標芝居より出火あま

芝居焼元大坂町甚九番門町住吉町人形町の辺に焼す○十二月廿七日

儒師河原遜亦卒四十才名遠業孫能忠○東近郊園板乃一枚物中田惟善撰

文政九年丙戌

美濃に地震○二月大雪二夜降○圓向院之わ洲名振荒人形開帳

○浅草唯念もめて下野守田山如來開帳○三月九日儒師龜田勝高卒

今年身名身稱文左衛門善身堂今年身名身稱文左衛門善身堂○秋又地震数度なる○今年遊女五菊が百年の忌

小島よりとて浅草新垣永見も小墳墓を営む石碑小塚教おまゝ京保十二年六月

物角所中万字屋おまゝ傍の遊女よりて京保十二年三月廿九日廿交りてとすなり浅草新垣

町老威ち一葬りたりと袖さししと餘の冊もよも小町よりとすなり浅草新垣

これに墳墓を営むとてこれとお送の年月を記し○七月九日暮時村回村回町より出

火南風よりて赤井田町に類焼し○十月二日將野素川彰信卒○醫師大槻

盤水卒七十一才名信之孫久前野蘭化の門人よりて蘭字を世に伝ふ

同十年丁亥 六月閏

正月二日夜九時過ぎ葺屋町より出火あま葺屋新垣標芝居標芝居町

人形町通片側大坂町甚九番門町之邊に焼す○二月國學者相倉惟徳卒六十

○夏より夏へて江の島上の宮舟大文開帳江戸より系譜より一金金

浮糸名古も困性あり ○二月九日西窓光のまに雲宝卒 七十五路山水を画く牛巧あり又詩をく

○二月十日より浅草も親世言宗性 ○牛御前王子持親閑性 ○深川八幡宮宗性

○肥前國上益頭那美於唐田而村産大雲武在清つといふ大男江之東 今年廿二

大七六寺量二千五百日平天守是名天守寺 更北馬 ○南越入所武松緑之助稲妻雷

五郎横綱免許 ○七月本台五丁目古丁目東側火除の為町家と取掛せられ

達市外跡は法門の外機田未は於て代地をある ○九月神田明神宗礼

産宗止り附宗十六卷所は成るす示より一雨せ共 奥物二踊臺七條物古と空む引万交と掃き物此時より止む

文政十一年戊子

正月八日夜浅草幡隨院の辺より火火とて又又東近敷焼を寺院町屋多く焼亡

○二月昔昔六時神田町武丁目湯屋より火火とて東風よて西神田町一園

新焼く又北風ありて本浪町本町石町駿河町堂町の辺より夜半の下

新焼 ○二月廿四日坊上も方丈火 ○春川口善光寺如來閑性 門前船渡の

依持 ○山王所為礼附宗今年より廿をりあ成る 一を和より ○下谷小野照寄

の社地石を疊て富士山成築く ○七月八日持所伊川院法宗宗信卒 五十四

○鎌倉八幡宮御再建成 ○十一月廿日平等院抱上上人逝去 六十八歳と云ふ一

卯雨華庵といふ尾形光琳の画風を 名基宗文系 ○儒師菅原宗海卒 九十九

同十二年己丑

今年の大元禄十年小同トより角が火を言の句を以て後利を

くろ ○正月十八日大雪 ○二月十七日大風音羽より出中集鴨の辺連焼亡廿少

○三月廿一日北風烈く己の刻に神田佐久野町武丁目石岩の枝木小屋より火

出て神田川を飛く東神田武家町極一系小焼をより東の西國橋際濱町辺

武家方より永代橋より東近西八瀬町通の石例跡より東例より今川橋向

本報所奉町河岩河堤堤通教寺屋外延南へ新橋堤留迄を掘りし
 一は石の所へ本町石町又傳る町小傳る町馬喰町横山町辺一系傳町尊
 登町為燈堂居岸極岩辺小網町八丁堀靈巖島鉄炮洲築地武家方西
 門前より先海をふさぎ佃島連本松町芝居系橋形橋辺町屋敷焼し及む
 翌廿二日於荒火以武家方於焼野々南山九里餘東西二十餘町焼死溺
 死の輩予九百餘人と云り此救の小屋九ヶ所を建て於焼の之具民を救也
 此時紀州之野山燔死群冥菩提の若小
 四月六日未刻南風麻布長坂より
 出火版倉斤町麻布谷丁辺赤坂堀池黒田家中郎跡延焼亡夕方雨降り
 ○六月十九日より三日のる回向院まで焼死人供養別時念佛修りあり
 ○當三月類焼の町々集土を以て龍岡町より元岩井町迄のる雪の土子成
 築せしむ十箇不ふたり其合て五百幸餘あり
 ○赤坂八幡宮永代は之開帳開帳 中大

火中村四月七日連岡帳
 手後再開帳あり
 ○六月六日狂舟堂真類年七十七才 小川赤澤
 ○七月一朱浪通用始る林四 徳町

○八月下旬大川通出水子位住来届る
 ○十月狂舟師村田庵厚磨修徳町
 ○曆原考一卷梓行石井光教著
 此年同記事

○赤坂大園茂正藩詰中豊川稻荷有馬彦正藩詰中水天宮御前池田彦
 造る○神田明神社小富士浅石社を勸請し六月朔日奉詣始る
 ○赤坂大園茂正藩詰中豊川稻荷有馬彦正藩詰中水天宮御前池田彦
 能事瑜伽山大権現園原村大聖院不動尊奉々奉爲と親世音奉祈能
 勢彦妙見宮奉奉詣始る又西新井惣持と弘法大師牛込町南宗院
 聖天宮谷中吉祥院重天宮月正正覺寺鬼子母林信人の並奉詣始る
 ○赤川津のる石像の上より并初秋の若多く像を水より流走○新井村梅照

院某師如來小兒虫封トの加持とあり○くさくさ盆程の松を茶葉茶葉年宵にまき
救金とて賣買ハ又南天燭の異色と弄ぶひんがし千竈本植本を勇意を盆程の松を造り
ふえり又南天燭の異色と弄ぶ

○あいつり籃摺の法帖流行○あいつり右布の汗毛拭きあり出久
寛永の布の毛銀小あそびの
この六件小布の多めくひとあり

○あいつり川越箭弓稲花社ト總勢本村藤坊明
昔のあいつり

○あいつり後深川六郎 桐澤嘉六といふも
林社江戸より多情人多し○あいつり後深川六郎 桐澤嘉六といふも

の色の奇巧と業ト造り出久内四人を以てて四十六を春一むるの業又自在織と
号し居あつゝあつゝ機織る業の奇巧なれどは

を刻む業と組糸と簡易小作の二業今年なれり○あいつり白き盆挑灯切子焼茶
慶と粉毛の菱花と画る挑灯りり○あいつり和玉橋の和より彩技本町小共ニ盛と云ふ橋やりの
いづのいづりも唐摺といふ物を他りて商以始る十九四

といふ字謎あつゝ合されハ廿三と云ふ夜廿二盛とよひるるの夜久しくお候りりるが文政中ニ終り○
り○あいつり白金三銚坂の山中庵頼司答の向耕直ハ古き料理やあり一々あれも文政中ニ終り○

晴雨計といふ小き本偶を高くもみかかるとのづくを以て製以雨陰晴の自持ふ持ち傘成さハ
○あいつり文政路の以より大坂の石田五山が子墨田五山依値に戸下りて神田併座町小住一けり

或日家を以て後ゆふに常小あつゝ垢付し衣敷の俵も後費も終つてくしき妻もありてこん
隣のりのと作ふるれもり方おれを身も次身おられ且婦人物もて何れ一借むべし
○あいつり祇すの挑灯ふす画の巴を画くは夏敷高深町のちやうちやより始りて多画の輪窓を去
の万字も次身おれまより○あいつり甲午年拾遺稿再ひえり出久○あいつり目玉石古坂梅中れ出ま

天保元年 度寅 三月 閏 十二月十六日改元

正月十四日夜下谷落運ち火○あいつり三月町火消長股大伐鋸始り○あいつり閏三月廿四日

狂奇師六樹園飯盡車七十八大石川氏名雅望と号国学ふは男を塵外樓法徳といふ

○あいつり閏三月晦日雷雨下谷の辺に降み大さく夏の以寺院小のく竊ふ石塔を磨

き戒名ふ朱を入りのり程なく止む○あいつり春の以よりや始り久伊勢大神宮

おろ多系り流りし次身おれ國小およりいづりも系流るる若敷

阿州の若あり非より四西一系ふあり又系ふ故小橋りまより流圓小及せしそ宝永の件小りる
如く乃中流りの宿終り後一なる智ハ美乗小降りて志宿の非系との也價を交けハ流散葉子ふて
簽一金輪を板生體乃中要用の品とふ小賣後のおととも系宮の若ハ流散葉子とて
りてあるは宿くの教書昌言語の乃ふおよばとあむ十月の以よりいづり止むは時終りせる
文政神異記といふ冊子小洋あり京師の○あいつり秋より後深川寺二王門修復○あいつり秋深川
板より春本林亭といふ人の編あり

降ふちあく甲州身延山祖師開帳 ○八月十七日麻布一本松氷川町社奉
祀四十年目やく産子の町くより出たり物未出る ○九月廿二日夜雜司春

影行院火

法明寺祖師堂救世堂外中の一室に焼亡
鬼子母林堂長末社の町をあらわす

○十一月朔日西新井徳持

寺後供養檀始有り

通俗群集を事おびさす ○十一月廿日画家觀萬月

年

七十余才名常雅晩年景洲と号
英一峰の門人之深川陽岳も小築川

○十一月廿二日夜中野新築川所より出火砂村の辺

追焼亡 ○十一月晦日巳申刻橋町三丁目出火若松町横山町御所倉餘武

家方未だ焼 ○十二月八日夜下谷所切子町より出火幡隨言院寺外寺院

町を焼亡 ○十二月廿二日夜四時小傳る上町より出火小傳る町より自大

傳る町二丁目通旅を結町新枝木町堀町草屋町為産芝辰寺外に焼凡

六町小一丁半程焼る時七時の始る

○この冬あつたるあり十月
以来九廿八夜も及ぶ

天保二年 辛卯

三月五日より十九日追焼戸天満宮開帳 ○春より濃草本菰さけて甲及山利本

那休息村三心寺祖師開帳 ○築地の石橋南千二百坪餘新親埋立地ある

○四月深川要津より長良大妻の森下町に綿の裁屑より割裂る本筋紙といふ物を

濂始む ○七月朔日遠山荷塘卒 三十七歳長終念ふ小華内外の書籍小傳り又洞曲月
琴を善く北西廂記淫歌月琴考胡言淫語木の編あり

○七月廿四日儒師西服棠園卒 名を簡称塾右正門
六十九歳 ○八月七日戲化者十返舎一九終 重田
氏名

貞一下谷と云店名跡も小華以ち中東陽院檀越あり
評世世世をいふやとおおせん番ともいふか灰を根る ○九月十二日より堀の内妙法寺祖師

開帳 ○日蓮上人五百五十年忌供養法花宗徳寺勅行 ○豊橋河門外小松で親世

太史勅進能身仍あり十月十六日と初日とて晴天十五日のる身仍の空あり

雨天中外外で翌年より日教の外日延身仍あり石の六月も玉く信む 身仍の目ま極
登年直せり

○十月廿二日日善里修性院の庵中お終て系師より下り不逞堂といふ人大字

雲の字と書き 堅廿六石横十九石仙色の紙を方式子教焼
垂七石三斗茶茶武百葉中廿葉極あり ○十一月廿三日曉上野所奉坊火

○十月廿九日夜本石原町出火大久保彦下中江乾燒

天保三年壬辰 土月同

正月二日曉五節名勝町より出火北餅屋町南條町白魚屋並に外乾燒

○三月より淺草幸社より中徳駒木村後防町林園地 ○四月十七日より三日は

堺所中村島三并芝居十夜目お續の書物云身約 ○五月廿一日淺草新町本藏

より豆及玉沢法華寺祖師園地 ○秋高徳泉岳寺山門再建 樓上小十六羅漢の像
七排列

○八月十七日麻布氷川町神奈礼花火 遊物不出る中後中徳を ○九月廿如末

より赤佐名勝といふ若狭火の要具とて水車樋と号し井の水を繰上り器并

逆柄の柄抄を賣始む ○十月新吹式米金通用 ○冬淺草より觀音寺園地

○九月廿一日下谷徳泉寺町千束福右の系不修の花火 ねり物を出さるに

吉原西の家の堀家より是を見んを極上をり遊女死若若於食十六人徳

落けるが各重丸きんぎょとてかゝむ ○十一月浮世繪師折川壹信卒 年余
十六日に列島の日初雪降雪中
管弦よく列に

○十一月琉球人來聘 正徳豊見城王子
前王の使澤低叔方

赤川歌みく雪いと白くくり積りてる成りて
武義の系とてみりいりいりいりいり雪の形もさる 豊見城王子

まゝ 奉りりる日
日く清みの底よりいりて日本の光とあけ能のみや人 全

○閏十月十九日寅刻糺町出火夜時終る ○冬風邪流行後民法教米抄とあり

○續徳家人物志刊行 志新東里著先小系の地系某々何々
日本徳家人物志の後編也

同 四年癸巳

二月朔日より寺島蓮花とあり富士山本号大日如來園地 ○不忠徳系又天

園地 ○芝泉岳より釈迦八相曼荼羅并地 外西妙井徳持より法大師地

上り芝泉海奈才天王子福右所神本下川某師如來月白聲明神多摩郡

井の尻舟才天、新為越安盛寺妙見宮東園帳○岩正法寺老住後塚系祖師在帳
 ○三月九日より後塚寺龍寺より京於奉園寺祖師園帳○同日より永代
 寺より下總成田山不動寺園帳在納寄進の品懸一○三月七日より和瓦江
 の島下の宮舟才天在帳江より諸人多し○四月朔日より永代寺舟才
 葛西濃江村親正寺客人権現園帳○月二日より日向院より下總法苑
 寺祐天上人像并地蔵尊園帳以時ある穀種をえざる珠の大ききこと
 寺降り中法園の神仏の像を安き○四月五日より
 浅草寺舟才太恭廣隆寺聖徳太子園帳○月八日より深川淨土寺舟才小
 田系降永寺祖師七面明神園帳○四月十五日羅漢寺三市堂修復成今日
 昼時之中寺の親世尊像を遷以○六月浅草寺舟才六天系礼今年より
 昔の如く神楽を渡以○篆刻家益田勤齋卒七千才名詩
 字万頃○此夏靈巖島
 東淺町の先小川辺靈神とてある何の神とも知らず一時小集諸群集しけ

るが終のるあし止り或人の死ふは川を渡り水中よりより一縷縷を
 まるあしと首を川辺におまぬ一ありこりり○七月半の以

より湯島極生院の屋上樹木の中小葉昏より雀幾百とあり群り集る（
 人等を我ふといふもなふらふびとを或人云是の雀ありらふは園田耕者あり院を尋る
 何と云ふりのあてたへ人ふらふぬりのありと未その是れを知らず）

○八月朔日大風有家屋を損下樹木を折る深川三十三万壹半分倒るや
 怪家人多し○今年米價也揚一負氏一石故の米砂を揚る事度之写者の
 町人各

○谷中長輝山感應寺護國山又王寺と改む○十一月朔日夜
 八下燈下町代地福奉といふ酒樓より出火近辺焼せり

○江戸名所圖會梓杉此書の寛政中祖父長秋居士の遺稿先考縣磨の技訂ありし
 郭外小わきをのりたる縣磨の編輯より半梓杉ひりのたし
 至精ぬく成りて梓杉不及いさりしりの先考没後遺稿を梓杉とて庸者不委ねらふのれが若
 冠の以りし鳥馬の徳珍砂を以今あてて悔れをいひは杜撰の罪を先考ふせせんとんがわらふつ

天保五年甲午
 正月七日中村佛庵卒八十才名景連林徳を以先考とす
 林業ありし書せしり○二月七日小風烈し

天保六年乙未 七月閏

正月十一日明六の神田熾燭町より出火皆川町永富町松下町三河町等
丁目二目鎌倉河岸迄焼焼益時お終る ○四月廿二日子化中刻若京南町
より出火廓中狭く焼亡す 佐世花川山の前聖天町赤仲町門前裏の若田赤町
等より三百日際りあつて元地へ移る

○二月八日谷中茶屋町出火 いつは茶屋
二日焼亡 ○二月九日林田町赤野町出火

聖堂取より河原迄焼亡 ○三月十日夜四谷々市谷迄焼亡 ○三月より

浅草寺焼亡より後及沼津妙海寺祖師堂焼 ○三月十日より不忠池赤才

天保焼 ○折島妙見宮焼 ○四月朔日より三圍稲荷焼 ○四月より渋谷

長谷寺より赤若羽親世寺焼 ○四月より目黒正覚寺鬼子母林焼

○四月廿八日書家園克明卒 享年七十五
号備南 ○五月より芝神明宮焼

京師六波羅密寺卒若親世寺焼 ○浅草寺奥山小韓信市人の跨を

齋の木の偶と己色物と 人形大二三尺衣裳短袴履を紺色の紙を用ふ
糸細なるれ飾るの之を六面よりいさねの物なり

○六月廿五日未刻地震 ○七月より浅草寺焼より柴又村毀焼帝釈

天板寺若園焼 ○閏七月朔日より回向院より鎌倉覚園寺某師如來巨像并

日光月光十二林若古佛堂焼 ○閏七月に日将谷振齋卒 享年六十五内外の志未詳
一人之稱殊に三つ

○閏七月十八日曉地震若園寺地震あり ○九月より嵐山小長崎山感應寺所建

五 法花
宗 聖年あつて本堂撞壊徳門修房小おしく成終 巍然たる梵刹あり
極めく産せられり

○十月百文銭通用始り没残を録せり ○野洲産人参の形を真困の病人并

給 官医石坂氏
製法 ○十月廿九日夜上野山出火 ○十二月八日夜下谷金板石編布の

辺より出火金板通り迄焼亡

同七年丙申

二月九日己刻地震 ○二月十六日より芝泉岳より八幡曼荼羅園焼 ○三月朔

日より浅草三社権現宮焼 ○三月七日より奥州折津新築寺虚空蔵并浅
 草寺念仏堂より圍焼 奥州念仏の産土寺の三つ子日、圍焼場、此の地、願成、於二男、於三男、
 病、招、り、の、容、貌、よ、く、岸、を、日、尾、前、山、先、生、品、生、孫、を、編、輯、せ、り、と、り、内、一、
 大坂天保山の ○三月十日より谷中妙福寺日親上人圍焼 ○三月より永代寺より

勢州國府村府南寺本寺阿弥陀如来宮焼 ○三月より丸山與善寺より松葉
 谷妙法寺祖師宮焼 ○三月より浅草寺権内淡島明神宮焼 ○四月朔日より

永代寺より葛西半田稻荷神宮焼 ○四月より浅草寺町蓮光寺より遠及
 費名山妙日寺祖師宮焼 ○四月四日谷伊賀町續新親町屋出来て四谷新堀江

町と号以 ○四月八日より大日坂妙豆院大日如来宮焼 ○六月朔日より浅草西福
 寺より甲州焼籠佛宮焼 ○六月十五日より回向院より漢家親述如来圍焼

○六月十七日より十四日の若本東寺勸進不あり二月堂親世より圍焼あり
 ○六月十九日夜默の毛雨と降る ○七月麻疹流行 ○豊前寺宇佐八幡宮并小
 深村をめて赤坂の男兒二人

と程々梅の形ふ出まきて西園小出と見せ物と云 今年四月より日く雨降り曇天より五
 月より霖雨止む時あり菜蔬生る事あり候儀宮焼消人少く看せ物何事
 ありとれども花物ありあ國梅畔納涼中寂莫より七月十八日二十日小嵐り
 且より大風雨家屋を傷損は大河通出水あり是より米價一時小を揚り又
 のより八月朔日先小倍せる大嵐より翌々屋宇を破り樹木を折り怪
 我人病生る所りをまゝお溢る是より米穀減乏し人困苦甚し七月より
 貧民の救として米粥をあり又十月小いより物送揚屋の外より和泉橋迄のる
 河岸通り小の救の小屋を営てこれ小屋じめ食物をあり 此等水油拂底あり
 小愛の油や、商ひを信む

○九月十九日築地新堂天鏡成今日供養持始あり 富家の派
 種始む 貴族群集夥し
 ○十月廿二日浅草寺輪花焼亡 年内より火火の焼亡、この時暫時の方
 以、迎、り、り、る、時、報、世、の、利、益、あ、り、と、云、ふ ○十一月十二日
 夜四時時神田鶴町小横町より火出 於燒
 二丁 ○十二月廿九日夜振津門前茶屋所

焼亡○江戸買物獨案内三冊持仍

天保八年丁酉

札幌小のき去年より賤美一は救せ下りある事度之○二月狂言師文舎蟹

子丸卒 又保良 ○津川清のちまて身延山祖師用帳○八月薩摩燻燭售ひ始む

魚鱒と号次○度齋行る○八月十日日初より大風由入家七損下樹木を折怪我

人多一夕方小いりて寝る○九月神田明神附祭の内橋本町三丁目より袋細又

の身物と出り 寄家妓の趣向を志すに極の美の形之類より身置衣裳若祖父母小い

○十月寺分帳新規吹まる○十月十九日院六時吉東江戸町二丁目より出火

一系焼亡 坂宅山の宿花川戸体川八幡本あり ○五五別新規吹まる 十一月朔日より

○十一月九日夕八時近地震○日光山志五巻持仍 植田十老衛 ○関八州路程全圖一

持仍 瀬井善照著 通用之下

同 九年戊戌

四月間

正月十五日秋人行岡寛光卒 林周浦又権太郎号都子園 ○二月廿二日明六半の根津門

茶屋町より若火宮永町七軒町外近辺に院焼亡○三月廿より半島白鷺

明神用帳○月十日より新寺町五泉より下総番取妙興寺祖師用帳

○十七日より回向院之井の改弁又天再焼 境内之人形師泉目右の細ふりそそ

○月十日市谷茶末稲花明神持仍 持仍の違ふあり ○三月依願在浦珍規

○四月十七日大風午の刻に小田原町武丁自湯登より共火一始い小風あり

南風ふりり伊世町院戸物町本町石町本根町辺より今川橋通り西の鎌倉の

岸小川町武家方西社田町一系焼亡空所の辺に夜成刻に焼つ門取い移る

○閏四月四日夜廻町出火○五月廿一日より永代より武州多摩郡長瀬町玉

川明神用帳○同廿五日より回向院にて紀州加田淡島明神用帳 持仍 持仍の形を

尊納物ありて有御座
ありて半途より止む

○八月廿五日大風各地かん○十月日本橋(去年二月大坂より)車ありて何某二件
落着の捨札立つ○十月九日十日湯島天満宮地主とこ後明社祭ありたり物

ありて人多く死に○十一月八日夜水谷町より出火佃島延焼亡翌日已刻終る

○同九日夜市谷左内坂出火○東都歳事記五卷梓行

月夢著
長谷川雲且兼雪隠画

○江戸方角註解一卷梓行

二遷著

天保十年己亥

正月十一日雪二尺舟極積る○三月朔日より飛戸天満宮開帳

○三月二日西南大風土砂を飛走夕七時の小石川若原谷より出火駒込馬士前より
武家方組中、死町屋とも以夥く延焼之○三月廿日より青山善光寺より

一先之尊孫院如來開帳○同十一日より千駄谷仙壽院鬼子母社開帳

○六月十七日より回向院より川傍平間寺弘法大師開帳

○相州江の島舟大天開帳

住人形師末吉石舟

○六月十七日より麻布廣尾天現寺毘沙門天開帳○神田明社社一の尊

居建政

○十二月朔日大風昼時区江谷恭宗より出火青山寺より延焼寺及び

○十二月廿六日宮田宮定院より出火宮田辺町延焼穴八幡宮の樓門焼失

○同廿七日夜吳服橋内秋元度正藩邸より出火

同 十一年庚子

二月廿八日より五子橋若原社開帳○三月朔日より元坂田町世継橋若原社

開帳 ○三月三日より小石川牛天神開帳 ○同六日より浅草寺町正覺寺より
 下総大野法蓮寺祖師開帳 ○月十三日より浅草寺泉寺より佐渡塚本根本
 寺祖師開帳 ○四月より板障権現山内約迫稻荷神社開帳 ○谷中妙福
 寺祖師開帳 ○四月朔日より芝社明宮内より天海宮内奉の像
 開帳 この時境内よりよりありし土生狂言をせせり ○同日より角善村慈野十二社
 権現本地親世寺開帳 ○五月より麻布善福寺開山像開帳 ○八月十五日
 芝田町八幡宮系礼産子町より出し修物本寺に後止む 八月十日料
 鋪掛月樓折や
 仁宗善後成就 仁宗善後成就 ○九月七日夜五時元救寺屋敷火出火尾張町近於焼せり
 高美とあり 高美とあり
 ○九月十日朝大風雨 ○十月十三日浅草寺本堂修復成就之今夜閣下刻
 本寺念佛堂 本堂善法中本寺より
 此堂不安をいなる 遷座あり 遷座あり
 諸中の外入るをいなる 修て留時宗
 帳あり道俗群集 此時本堂善法中本寺より
 草の閣羽部給本堂善法中本寺より 縁縁の敷ありしと善法の時より

○十二月十四日画人谷文晁卒 号写山樓又畫家秋蘿筆一七
 文向孫と云淺草保寧寺に葬る

○十二月十八日神田明神社所修復成就お付く亥刻遷宮あり
 ○羽明新嘉納二万村百餘林助を孫長以齊とて十に方ふるの六七年前より眼自在出這六
 毛眼の玉大さす降るありしを如る眼(組)とて浅草寺文を掛つひしに戸ふしと宮
 地度場ふまおひて 不深堂蓮翁若一巻
 江戸法花寺院縁起抄にふあつむ
 ○繪本東都本化乃坊紀持行

天保十二年辛丑 正月間

正月六日夜四谷所筆管町より失火四谷傳る町外外廻町不於焼羽立院
 追焼象 ○正月廿七日夜板障の茶茶所焼亡 ○二月より傳通院内福聚
 院大夏天開帳 ○二月廿八日より浅草寺親世寺開帳 奥山より驢馬を見せ物とて又
 兼川園丸といふ若月不出て曲
 鞠と遊る名物日毎ふ山をせり又浅川區五弁 鞠と遊る名物日毎ふ山をせり又浅川區五弁
 としつりの作りし具細工のよせおもなり ○同日より回向院あぐ徳谷寺汗院如來
 若蓮生像開帳 ○月晦日より青山善光寺より新木光昭寺親世寺開帳
 ○護國寺親世寺開帳 ○四月より芝田町茶師如來開帳 ○回向院より越

引うきよしめて三町分勢地敷坪を万七千八坪餘とす此の庭中日者の一里塚の傍よりありの五石に
十石より一丈竹の山あり池の舊地と稱するありのあり池を置し小祠を建し小出家の山下中一尺の崖に
揚きせしむる是より後身置敷後若他町の住居を移せしれり三町内因に住居せしめり又途中編を五とせしむる
せららちのれもむまゝなる山の南なるにりまむとよし子なる也

○三月朔日より永代より本赤川觀福寺備前觀世音開帳○月三日より日

和も成田山不動寺開帳○三月七日西大風屋時之牛迎通寺町より出火之小

石川小日向約迎邊集鴨為が系近武家町極寺院多く焼亡以燒死怪象入夥

○三月十日酉刻本形回向院芳元町屋上町焼亡

○三月十八日 官府より命せられて江戸端に法料理茶屋廿餘ヶ所取掛約九

女小吉東町へ今八月近江曾不引掛ひ若妻一赤川移りて喝家と
あれどもあり不謂廿ヶ所の除の拍子へ△深川仲町仲町と稱せしむ
山本町あり△新地つた
み陸と
りよ本

△古石場越中
山本町△新石場山本町
横通△橋下山本町
西の邊△徳打場山本町
河ひる

△本新敷天八幡屋中
とりの△三田三角赤命院
寺名△麻布市三條町深川八幡宮
旅所あり

△市谷おぐ谷谷前△根津つち△谷中いろは茶屋大ま
つち音羽町

△較々橋△赤坂麦め田町之遊女あり青よりよみとのよよの者りりると
りよまよくあけあやわらんりや

○三月廿二日小大風屋時之物揃茶つあより出火赤川新宿小石川宿於燒亡

○中野宝仙寺不動寺開帳○四月朔日より高橋太子堂申堂福前社宗帳

○六月より回向院より南都法隆寺聖徳太子御帳靈宝殿あり拜せむはれも古物あり
高き赤川の茶屋よりして礼花ありと

○六月十五日山王赤系礼佛産駒也かまひ始り附家廿ヶ所

ありしを三組に改めきまを三不
つとせ出せ○六月大佛了所小舟所牛頭天出山旅出の事四年々

五ヶ年のる休む林田社地より居あり
南信州町大玉の海より○七月十九日戲作者柳亭高谷種彦種彦は年
号不明

赤坂津寺より赤坂夏より秋
いさや○八月満池上白山社取掛○九月後若町寺

町中村勘三郎月二丁目市村羽左衛門が芝居物真形

○八月後若町標芝居物真形結城

○九月後若町寺

町中村勘三郎月二丁目市村羽左衛門が芝居物真形

養老もひきまきたるにあり毎年正月二月は香成領ふとあり都下の香成
兼宿木小舎くく吉声の美悪を論一風流の名を説くを以美日山と号し
るの在経妙ありて天下才一と称す三笠山と号するの是又要りとて隅田合
集まを漢一巻を著し畜畜の法を修業の補妻くく巻くあり

○寒暖計と号し四時を暖と量るの番行りりたる茶人持信りの品あるを
本邦にて製し始りるよし○深川仲町二番店の傍あり一軍出を毀て町を以

弘化元年甲辰 十二月十三日改元

二月より牛の所前王子権現開帳せいのみやま止む ○浅草より町本番ありて上徳必藤

系妙光寺祖師開帳 ○中延八幡宮開帳 ○龜戸天満宮開帳 ○妻小夏みどり

為園橋西廣小路小太るる仮を構へ駒也一牛津菰治下谷の位 ありみり妻の曲とせん

マイくくうと交へて見せりものと以見物山の如く
これ小籠ひく浅草より位と奥山信以といふ
駒也一牛津の趣向小くい駒もまづつとて文

乃多建あらしうとてあて浅草の奥山とて見せりものと以見物山の如く
中後人形師牛田健登のみりなけり人形のこせ物を出し

石川下宿坂町より火火とて駒也土物店近れ焼臨三丁長十三町 ○肥前平戸香火男

生月懸るる焼つとりるわ撲取来る乃の六七天守まサ三言堂 ○五月五日為園橋

西廣小路芝居小倉崩とて即死二人怪家人救ふあり雨後籠の齋 ○七月九日香火男

小田原町二丁目より火火伊勢町御所物所御所敷焼夜九時終り ○七月廿四日

曉八ッ所田所湯登より出火くく元大坂町長谷川町洋吉清町元濱所油町より

町富澤町に岩近れ焼朝立所以終り ○七月廿八日能師田喜巻護物卒壬午年号本宮居
浅草縁念ふ小春

○越後の若男女の侏儒小踊りやをくくせ向あ園小新く看と物といひ ○十月より東鴨

深井葉の造り物再び始り文化よりこのこ花壇のくく造物ハ造りくく今年葉鴨あり天感院
の會式の飾り物として宋祖の山雅のさふ蒙古遺物の飾りて葉葉とて造

造りより始り植木や毎ふ葉の造り物をくくして法入あるせり聖皇元年より白山駒也植木谷中より造り植木

造りぬ家手でもきそくく造りくく九三十四所終りるつ手旗の又物日毎不詳集り終年くく造りし
か束の今ふくく造り ○十月十七日より王子橋新町神開帳 ○東師の画工岸駒が男岸良江

戸小来り浅草親善堂(楊香の額を掲る)○今年長壽の人水口壽山百才 末吉石舟百才 花井白豊九十才 大岡雲峰八十才 前小夜為一八十才

弘化二年乙巳

正月廿四日小大風砂石を飛以昼八時青山桂右丞續三郎所武家地より出火一々一時小焼ひろく或飛火して麻布三軒家一軒を居坂辺六本木龍土市吉田所橋岡町永坂辺廣尾白金魚籃親善大信の辺二本榎伊四子後町吉福并田町小焼亡く海を渡る夜入狸穴三箇の新細町の辺焼亡成下刺落る武家寺社救を初り所救百廿六番町焼死怪家人或は海辺の者若後の火不包れ海中入溺れ死とりのを合せて幾百人といふ事を初り赤羽橋の側は救の小夜を建て乾焼の貧民を育せしむ。
い夜何れの家より出りん某能一尺人辺の中を往い走りて某度の藩内一途入るを家臣信某父子二人おては留りて又い某の助白金堂所下日禅宗西照子の表つ小焼る所のん越師の尊善明山と諱まうて出する病額火中ありて焼る昭和九年外坂の火より不危く終りてり一々今年門焼落る額のく砂より世々より瑞雲寺長福寺麻布氷川社吉福吉子堂庚申堂

編者社象岳の如く ○二月雲巖高は藤立化成る後町を建て富橋町と号し電 ちあを残れり

格の ○三月廿七日曉七時半時柳原去子續富松町より出火久右衛門町豊島町火和町江川町橋本町辺小焼る町塩町油町回所町堀留町新林本町より長若川町吉砂町辺ありは十九町の乾焼より七時半ごろより終火は

○當年閑帳ハ二月九日より牛所前王子控現去子跡 同日牛島蓮花寺弘法大師二月廿五日より井の沢系又天同廿八日より同系不動寺三月三日より川口善光寺如來今年草堂の下を極て戒壇おうてあつかりり 此心門芳深り頃後格をうける 同五日より浅草寺町泰宗寺兼師如來門九日より吾妻森寺妻權現門十五日より増上寺芙蓉洲并才天門廿日より川口錫杖寺天満宮地蔵寺

四月朔日より芝林明宮内并才天門日より赤川洲崎并才天同日より品川海晏寺并才天較次親世寺法院如來四月より出村本仏寺鬼子母神五月廿五日より葛西柴又村帝釈天七月朔日より愛宕山内并才天山の下岡山堂 右何れも自坊

小松屋屋焼あり ○七月より浅草寺町正覚寺より中山鬼子母社屋焼日下川
 廣尾又現る毘沙門天目蓮尊像を金毘羅権現開帳 ○八月十日より小石川
 白山権現移る八幡宮屋焼 ○三月十五日小石川の橋上の宮弁天開帳江守
 兼清より ○五月浅草寺五重塔修葺 ○九月牛島而く裁木屋を院あり
 兼清の造り物あり ○九月猿蓑町より聖天宮表門の通一基直小小路を修
 ○十一月廿八日俳人白熱堂風朗卒 飯倉正徳若菜寛對井
 との谷中 天長 小野 孫次 ○十二月五日暮六時吉原
 赤町武丁目より火廊中焼亡 飯宅の石川庄山宿屋五町丸町浅草山川町田町村を越山
 谷津川八幡より同查村町佃町同左整町八幡宮旅門より草平
 陸又申の時の鐘弁入江町長尾町
 八拜を深屋を弁天寺 松井丁あり 寺よりま一掛て飯宅をまつり以午年九月元地
 焼成り引移る 飯宅の二百五十日限りとて元地移るは時ありふ出まると居るをを吾妻長原園弁長原
 永積長家三長長やといふ松葉長を移るは家と改む
 ○十二月十一日夜坂本町へ出火焼場町表裏兼茶師境内焼亡

弘化三年丙午 五月間

今年正月元日より三日迄の牛房小毒ゆりといふ俗説はれり諸人食するは
 ○正月十五日北風烈しく油石を飛び夕刻の小石川片那の小武家地より火一
 て丸山へ移り本妙寺菊坂の辺より本町町火より元町辺へ本町通り湯島町邊へ
 本木町辺神田明神門前 神田社様の境内社系湯島
 又湯島聖堂の邊あり 本町町仲町の辺あり湯島火の
 駿河基へ飛て小川町へ焼込東西林田町へ一系焼亡今川橋向の本町石町堂町火
 傳馬町小田本町小舟町堀江町小畑町茅場町八丁堀濱町永代橋際迄雷轟
 島築地鉄炮洲佃島 本町通り
 中島 南へ城小のころ西へ江堀場通り神田より一石橋迄日
 本橋の向の通り目より本町迄系橋手前一系焼焼るはる小色れ町へ連
 河れとも殆ど所あり一羽二十三日の晝九時迄炭町の井河巻るを焼る長九一里十餘
 町大小名は藩邸敷を焼るは町敷武百九十餘町焼死怪赤人殺すといふはは湯
 島田満より三層の多宝塔 聖山上人建
 寺あり 又妻意橋荷社 進以再建と伝
 寺あり 一も此時焼る

○新焼の負民の救の小屋三ヶ所一建つては除の族民も米湯とあり
寫省の商賣
もこの姓を
○正月十六日燔魔
未更あり ○二月より深川八幡宮開帳 ○月洲傍舟大天本社修復成就とて

○三月より米代も地七波り舟大天開帳
昔海三ヶ所ある處をたつたに城の辺より南社
詣りて七の橋を渡りたる處の名有りといふ

○四月二日より陽島社内より増田郡野島津山宮地を為開帳 ○四月廿二日師
小養庵確嶺卒 ○五月晦日関原大聖院不動堂火
敷堂傍
房焼失 ○五月十七日石野并

國学者鎌倉菰園卒
五十八才沖子法師始蒙奉大隅後帝性於田本政称
性進難蒙て宗法田といふ程を中林宗院小養 ○六月より日向院
内一言親世書并茶芭舟大天開帳 ○蛛の糸巻成字本巻
若池百樹七十八の時の著
安永前日世上の風俗を記

○夏の半より為整くして晴々事稀と六月下旬大雨降降き洪水溢き出
下依羽生利根川通り堤の辺九尺餘りと聞て廿八日子上刻葛飾郡権現堂村
より六里上幸川役村堤切き洪水漲り出子住辺家屋を浸し小柄糸の石地を

考肩より上のりもる箕輪の辺一時水溢き床の上二三尺をり不及大住居を
らびり外へ逃還くと溺死のり社も有りといふ日奉提よりりる小茶海(如)

○六月十五日山王宮系神社改所修復あり同月廿九日小遊り此日洪水未
減せし七月より注大由降七日八日より再お降して大川水勢を急し大川橋

新大橋永代橋損とて住来止り為國橋の通りあり本所辺和もよりて水新
増し付く本所之士民夜中俄々舟をさして逃る人た多難難りといふ

より船持不令せられり日く船救艘せ出されりこれと救あり
以事なる所
の船を有り

○當年在りも災い上州桐生倉野野野
此の年
の災い

宇於宮佐野本庄宿態谷深谷行田本外大史あり ○喜多静盧丙午并
一巻と著輯
写本
世の人丙午の年より災厄ありと云且當年お生る男老を記せしめたりといふこれ
を記すといふ余詳異本の例旧史を徴して之を述べて

正月十日夜亥刻下谷通新町より出火千位三昧の寺院跡らに焼亡す○正月廿八日曉丑中刻柳町より出火二所程乾院○二月二日夕西新井弘法大師園燒○三月廿日關系不動寺園燒○四月十八日より儀某寺觀世音園燒○二月より儀某燒め一向三尊の疎院如東園燒○湯島社地を野島地花寺園燒去の跡日

○五月より儀某町大仙寺を武馬場村麻坊神園燒○二月廿五日小山田与清平國學院より以初名多田を事又右并左事後小山田以清と改号如永舟の卷推去念といふ今今台十丈深川を流る中其哲寮小華以

○河東崎芝居喜の狂言小中奉抄巻虎巻の玉他を伴けせしめられ諸人酒席の戯れにこれを志願す○儀某寺の裏山に世物も出せんと相比奈の人形を造り次の大立一丈餘煙差へのよき三万才あり○六月廿一日より儀某と止ぬ儀小つり一丈餘の大物の也

○二月廿四日信州大地震人多く死にけりも坊夜少一の地震あり

今年二月八日より川中島若老若水の園燒ありて諸本より志清群集より子稱麻をこり梅も不儀若山の柳老よりも滅る成候一と居る三月廿四日晝夜快晴より夜は時以候小地震あり此地震は家屋を震し壓れ打て即死するもの幾人といふを知らず善光寺通思の跡に未だの地を洩り合しその禍不遠よりのたとも不救一と世程の倒れを家より大儀出く大儀善光寺の存堂へ傾る儀跡りし時悲く及終てあんぬ大の時山中不のりて利益を蒙り一會成金合せりの救あり

又雷鳴の如き言わりて尚やり出一夜のよふ迄半陰四月廿九日よりて止るや一丈餘の烈けし泥砂湧出する人畜墜入丹波島より二里川上虚空落山并下程流る澤川一落入洪水溢る丹波川水神出た右取のどに焼死の人多く我といふを知らず或は記す方人といふは丸の積りて傳へる一水内郡の録をよみしより一とあり他は出れぬ見一村を流りて多くは砂のりの中片瀬あり其敷をく飢道より儀某寺に及びこのる地震は止時あり用あり泥水とあり為遠か之觸り若く程あり官府より小區を建つてこの窮人を育し食物を給りけること殊を今年の厄なりとすく毎に戦懼あり屋棟の前門前より云々を建つ一夜うせりありは以り方々を再建すふ又乃方也三度小のりて昼夜番人を待たる是の凶災を知らめありとて一とありてなすといへりこと

○五月十六日曉八時半時横山同明町より出火橋町了陰町横山町辺乾院儀某町跡る○六月八日夕小舟町天主神樂所跡あり去年建たるの石体も今年より浸りまゐる○史籍年表刊行一卷伴信玄著

○目黒町茶屋菊造物出馬○十月吉原秋葉燈観念の時花出れり物も多し出火○声曲類纂六卷持行月琴若

此年間に記事

根岸新田といふ所は梅屋家と云く園中廣う松と紅白枝と交り頗る壯觀あり唐土留右史といふ書にも嘗の舎あり柳林地を物吉の里と号し嘗の名所と云ふ東蔵山御書院主某物吉の里の由ありを記すは碑を建てる碑は尚時記す物吉の名を稱しあり

○華毛といふ條も石垣志ありといふ條神和と申す ○谷中瑞林寺塔瓦久成院妙法
善神社の如の考あり ○高橋石神門不安番と境内(橋)あり ○七年以来雲降ると稀
○繪巻といふ條れはるをんみりて二の点畫を純一餘人これ小草を加へて画するの故あり
大人の果んてさりのみりて

加永元年戊申 二月十六日改元

今年の大少章の字を以て暗記の運筆の順より終せしむと云はる 章 ○二月六日より晴
天十五日のる筋遠橋河の外加雲系よ於て室生太夫觀進能身なり九月十三日小修り鳥
羽の日毎小遠をの半筋輻輳と之をさるの事なり ○二月廿九日小芝泉岳寺八幡堂
茶屋開帳 ○其六阿弥院如來六所新開帳 ○二月三日小青山善光寺にて大坂如來
寺修院如來開帳 此阿彌光寺を本堂
善後成徳せり ○三月廿二日夜赤坂表修り町堂丁同く火火救寺町焼亡
○四月最淨山遊乃上人化益 日物寺修徳寺
ね秀よとて修徳寺なる ○二月廿九日喜多静盧平 八十二才名世言
徳寺善島号極圓
○五月護國寺山内松の梢小齋榮と云ふ ○六月初旬より日干
受保天徳の中教空院寺春以
内外の書籍小修り一人あり

○六月廿五日十八日回向院にて儀法如來開帳 今年の儀法善例よりいへば境内廣人御
奉出候はれと云ふものなり

○七月小浅草寺修りあり甲州青柳村福昌寺祖師同不達光寺あり上総久美津妙光
寺祖師開帳 此寺の
修り ○八月浮世繪師英泉修 ○八月廿二日北島玄惠法印五百年忌

市谷仲の町金春氏之能并狂言舟あり 此舟小舟を法下り観應元年六月十日小舟載せり
加永二年舟を修りて六百年之今年を越せり

○八月廿九日所連哥神壽阿弥墨商平 今才号は芝泉庵空草戲号劇神仙と云
小石川修通院寺中昌林院小修り ○十一月浅草東

仲町大路小坂橋井と修り ○十一月六日曲亭馬琴卒 八十二才名解号養分三吉同善他堂ありの秋号
あり此藩深澤寺ありと云雜談ありて名世言

○十二月九日夜亥刻小坂川舟修りあり出火あり目連焼 ○目連舟人坂大園寺

○川口善光寺本堂修徳成就 ○神代文字考一卷併成 崔峯戊申
編輯

果実風も昔不順ひ百穀豊饒ありて都鄙の良賤園を獲り幸を多きく在殊小快樂成

同廿六裏 小栗木川通新堀出来人改新番新深川良建と記せる様あり此町迄
 深川は今の芳年橋の傍に年々中川の口に移されあり
 三二表 橋上寺供養縁物師推名伴縁吉寛小改むべし
 同表 延宝三年の下ふし外とあるべきは誤脱せり
 同四表 仮名世祝より國町の沙汰といふ事成を記してあるものなり
 これらとくちゅうのさこと別記下り別名町の略
 同十一表 貞享の洪水より六郷橋の流るる年月三年宮古月十二日ある
 の水は橋下より一階一言あるべし
 同十五表 善光寺と光長寺に改むべし
 同十七表 江州田山寺は江州石津寺とあはれむべし
 同十九表 縣宗知と記して懸とあるなり
 同二十一表 英一繁穢世のあやの向むや宮古月良建の月と記せるなり
 張りあり 河りあり 月月の為善の宮古月と記せるなり
 同十七裏 富士村若乃祿物とあるは徳之為祿物不徳と一物に徳字之
 此除尚温謐あはれむる為なり 以度幾の月志の人その漏るる張補ひ
 徳とるを平しぬらんなり
 庚戌季煉ふらひあるなり

右輯四卷備書 宮城昌成

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會

長谷川雪且先生画

齋藤長秋居士編述

江戸名所圖會拾遺

長谷川雪且先生画

齋藤月岑先生著

東都歳事記 全五冊

長谷川雪堤先生画

齋藤月岑先生著

聲曲類纂 全六冊

長谷川雪堤先生画

上帙十冊
下帙十冊

全二十冊出來

全十冊近刻

每歳ニ江府ニテラ元神事佛會並貴賤ノ風俗マテヨ
 四時ニカキ記シ遠邦他郷ノ人ヲシテ江戸ノ歳時ノ
 盛ナルヲ知ラシメントスコレニ加フルニ花鳥雪月ノ佳境
 ヲ載ス多クハ郊外ニアリトイヘトモ江城ノ良賤歩
 ヲ運ブノ勝區ハトモニ記シテ遊觀ノ助トス

淨瑠璃節ノ世ニ行ハレシヨリ流汎ノ分タル年代ヲ探リ
 アソム巻首ニ系圖ヲノセ概畧ヲシラシム小野於通ガ傳
 三味線ノ権輿ヲ詳ニシマタ寛永正保ノ頃古圖ヲ徵ト
 シ末ニ曲節ノ名目ハ勢音頭湖末節大盡舞四竹ホ
 ニ至ル迄委シクソノ由未ヲ記ス

嘉永三年庚戌十一月刻

大坂心齋橋北久太郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋通博勞町

河内屋茂兵衛

同心齋橋通安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸日本橋通二丁目

須原屋茂兵衛

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八版

發行書林

發行

書林

京都三條通升屋町

出雲寺文次郎

大坂心齋橋筋北久郎町

河内屋喜兵衛

同心齋橋筋安堂寺町

秋田屋太右衛門

江戸芝神明前

岡田屋嘉七

同 日本橋通二丁目

山城屋佐兵衛

同 横山町三丁目

和泉屋金右衛門

同 本石町十軒店

英屋大助

同 神田旅籠町二丁目

紙屋徳八

同 大傳馬町二丁目

丁子屋平兵衛

同 日本橋通一丁目

須原屋茂兵衛

同 日本橋通二丁目

須原屋新兵衛

同 日本橋通四丁目

須原屋佐助

同 神田通新石町

須原屋源助

同 浅草茅町二丁目

須原屋伊八

